

平成29年度 授業改善推進プラン

学校名 豊島区立千川中学校
校長名 紅床 直也 （公印省略）

1 授業改善の取組に対する自己評価 <評価基準>A満足できる Bおおむね満足できる C改善を要する

No.	項目	内 容	評価	評価の説明
1	実績・取組	28年度の「授業改善推進プラン」に基づく取組の成果	④ ・ B ・ C	豊島区教育研究推進校として「自ら学び、課題を解決する資質の育成」を研究主題とし、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を推進した。特に「自分の考えや意見を伝えることができる力」の育成を図った。教員の授業力向上のために、全教員が年2回研究主題に沿った研究授業を実践し、生徒授業アンケートの結果も反映させ、指導方法や育成したい生徒の力の変容について検証を行った。また、「千川中学習ルール」を明確にし、全学年で家庭学習ノートを取り組ませ、評価の積み重ねにより学習習慣が確立した。「調べる学習」や「探求的な学習」の実践のために、タブレットを積極的に活用し、主体的な学びにつなげることができた。読書活動を通して、読書への関心を高めることができた。
2	29年度学力調査の結果分析	29年度学力調査の結果分析から見えた成果や課題等について	A ・ ③ ・ C	2、3年生の英語および数学において、全国の達成率を上回ったことから、少人数授業による個に応じた指導により、学力向上につながったと考えられる。国語における全国の達成率との差が、1年生では－6ポイントであるが、2年生－3ポイント、3年生＋2ポイントと、上昇している。継続して読書に親しみ、文章を書くことにより、指導の成果が表れたものと思われる。3年の社会において、「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用」の技能の得点率が昨年度より上昇している。生徒授業アンケートの「話し合ったり、自分の考えを発表する機会が多い」、「話し合ったり、自分の考えを発表する授業で、学習の内容がわかるようになった」の設問に対する肯定的な回答の増加に見られるように、授業改善の成果によるものと思われる。今年度も全教員で、生徒が主体的に学び、課題を解決する力を育てる授業実践（ねらいの明示、活動型の授業、振り返りの定着）に取り組む。
3	教員間での課題の共有	教員間で児童・生徒の実態を把握し、課題を共有しているか。	④ ・ B ・ C	区学力調査や生徒授業アンケート・教員アンケート及び学校評価の分析により、課題として「自分の考えや意見を発表すること」を苦手とする生徒が多いことを全教員で共有している。課題解決型学習を取り入れた授業を推進することにより、「自分の考えや意見を伝えることができる力」の育成を図る。生徒が学習に興味を持ち、主体的に学ぶために、「千川中スタンダード」に基づいた授業作りを研究のテーマとし、今年度も全教科・全教員での研究授業を実施する。互いの授業を見合い、課題を見つけ授業改善につなげ、生徒の意欲を引き出し、深く学ぶ授業作りを行う。
4	説明責任	学校の学力向上の取組や内容が保護者に理解されているか。	④ ・ B ・ C	5月の保護者会での学習に関する講話や、学校だよりでの学力調査結果の成果や課題の報告等を通して、本校の学習活動に関する取り組みについて説明している。夏季休業中に個人面談を実施し、学力調査の個票を配布し、本人と保護者に学習の課題と取り組みについての説明と助言を行っている。

2 自校の教科指導における課題と改善の方策

教 科	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する調査項目 (3年生)			
国 語	各学年とも「書く力」「読む力」については、全国達成率を上回っている。1年生は、「書く力」「読む力」以外の残り3観点は、全国達成率を下回っており、特に「話す・聞く力」を伸ばすことが課題である。2年生については、達成率について今年は－4ポイントであるが、すべての観点で全国得点率に近づきつつあり、昨年より力をつけていることがわかる。3年生については、全国・区の達成率ともに上回っているが、「話す力・聞く力」については2.8ポイント下回っており、言語活動の充実が課題である。	各学年とも「書く力」「読む力」は全国得点率を上回っているため、今まで通り本を読んだり、文章を書いたりすることは継続させていく。また、今年度、「千川中学校スタンダード」に基づいた授業を展開しているが、それを継続する中で、特に自分の意見を発表したり、友達のことを聞いて考えたりする「集団解決」の場面をより充実させることが課題である。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
					自校	
					23.2%	
社 会	昨年度より、自校の社会的現象への関心の得点率が向上し、好きな教科として選んだ割合も増加しており、意欲的に学習を進めることができるようになってきていると考える。しかし、全学年が区の達成率よりも低く、特に2、3年生の知識・理解の観点が区の平均よりも著しく低くなっている。	授業の最後の、内容の振り返りやまとめだけではなく、導入でも前時の学習内容の確認を行うことで、知識・理解の観点を定着させていく。さらに、定着した知識・理解をもとに、より深く自分で考え、その自分で考えた意見をグループでの話し合い活動につなげ、主体的・対話的で深い学びができるようにしていく。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
					自校	
					36.6%	

数 学	関心・意欲・態度を除いた3観点評定では、1年生が全国比－2ポイントであるものの、概ね、全国比レベルに達している。観点別集計では、1年生の「見方・考え方」が全国比－5ポイントであり、大きな課題が浮き彫りになった。領域別集計では、どの学年でも「関数」の習得が低い結果となり、小問分析集計では、3年生では、「1枚以上表になる確率」、2年生では、「グラフから式を求める」、1年生では、「百分率」の通過率が低く、今後の指導上の留意点が明らかになった。	生徒が自らの課題として受け止めて解決に向かっていけるように、習得・活用・探求の学習プロセスの中で、課題発見と課題解決の場を充実させていかなければならない。そのための授業づくりとして、自分の立場をもたせること、自分の考えと比べてみる場を創ること、考えなくなる場や表現したくなる場を創ること、考えてよかったや表現してみてもよかったと感じる場を創ること、振り返ってみる場を創ること、問題を拡げて追究していく場を創ること、想定外にも付き合うことを実践していく。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
					自校	
					41.5%	
理 科	1年生は、「自然現象についての知識・理解」の得点率が全国比－5.3と低い。2年生は、領域別に見て、学年の早い時期に学んだ「植物の生活と種類」が－5.5と低いが、遅い時期に学んだ「大地の成り立ちと変化」は＋6.5と高い。3年生も1年生同様、「自然現象についての知識・理解」の得点率が全国比－7.0と低い。また、理科を好きな教科として選んだ生徒が19.5%と低いため、興味・関心を持たせる工夫が必要がある。	「千中スタンダード」による授業の流れを確立し、特に「振り返り」の時間を活用することによって、毎時の学びをその都度確認し知識の定着を図る。また、実験や観察においては、どのように導き出すか手段を考え、なぜそうなったのか考察するといった科学的な思考が苦手な生徒が多いため、実験後の班学習においてデータ処理と考察する時間を確保し、科学的に思考し表現することにつなげる。身近な自然の事物・現象と授業内容を関連させることで、生徒の関心や意欲を育てる。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
					自校	
					19.5%	
英 語	2、3年生共に全ての観点で全国平均を上回っている。2年生は4技能のうち「話すこと」が全国より下回り、考えや気持ちを正しく伝える適切な語彙、表現を選ぶ力が弱い。3年生は「聞くこと」の得点率が低い。中でもまとまりのある英語を聞き取る力が弱い。	1年は基本文を使って自分のことを伝える、2年はグループでの考えを伝える活動、3年は自分自身の考えを持ち、表現できる活動を増やしていく。3年のリスニングの力を高めるため、ALTにテーマに沿って短いスピーチをしてもらい、それに対する英問英答を取り入れていく。学期に1回行っている、学年に応じた作文の発表、スピーキングテストは継続していく。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
					自校	
					31.7%	

3 自校の課題と改善の方策

教育課題	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する質問項目（3年生） ※肯定的回答の割合	
授業でのICT活用	タブレットPCや実物投影機などのICT機器を使った授業を行うことにより、主体的で深い学びにつながった。今後、ICT機器を様々な場面で取り入れ、さらに効果的に活用していきたい。そのためには、教科の特性に合った機器の活用方法の工夫や、教員全体のスキルアップが必要不可欠であり、生徒自身も活用できる機会を増やすことが課題である。	ICT機器の機能や特性を知り、どのような授業形態や場面で効果的に活用できるかを検討していく。 各教室に設置されているプラズマTVとPCを活用し、生徒の視聴覚に訴える授業を継続していく。そのためには、実物投影機やタブレットパソコンが各教科で行き渡るように整備し、より身近に生徒自身も触れることができる環境をつくり、生徒の興味・関心および知識・理解を深めていく。また、生徒自身が授業の中で、ICT機器を活用し、道具として使いこなす力を身につける授業に取り組む。	電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわかる。	
			自校	
			67.1%	
言語活動の充実	千川中学校スタンダードによる授業実践の中で、「友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりしながら課題に取り組む」時間を設定しているが、生徒授業アンケートでは、どの教科もおおむね80%が取り組んでいると解答しており、言語活動の充実は図られている。しかし、その場にふさわしい言葉が使えているか等、言葉遣いについては課題が残る。	各教科の授業の中での言語活動をより活発なものにすると共に、話し合いの中で使われている言葉について、その場にふさわしい言葉でなければその都度指導していく。また、教師の投げかける言葉についても教師自身が意識して正しい言葉、美しい言葉を使うことを心がけ、学校の言語環境を整えるようにする。	授業の中で話し合ったり、自分の考えを発表したりする機会が多い。	
			自校	
			76.9%	
豊島ふるさと学習の充実	総合的な学習の時間において「課題別学習」の中で「豊島ふるさと学習」を行う（9月）。1年生は、夏季休業中に1人1テーマで豊島区に関する調べ学習を行う。また、区内めぐりを行い、未来遺産鬼子母神堂を始め、豊島区の文化財から郷土の歴史を学び、ふるさと豊島を愛する心情を育てる。	豊島区教育委員会指導課文化財課のご協力を得て出前講座を開設する。「今」を学ぶ最善の教材を準備したこの授業の中で、主体的・対話的で深い学びの視点を生かして、課題解決に主体的に取り組む態度を育て、中学生として地域や未来とどう関わっていくかを考えさせる。	自分が住んでいる地域が好きである。	
			自校	
			87.8%	

学校図書館の充実	本校では、読書で卒業までに1万ページ突破を目標にしているが、各学年の平均読書量は1年生4.1冊(1,024ページ)、2年生20.4冊(5,301ページ)3年生34.1冊(9,848ページ)となっており、昨年に比べ、1年生は読書量が減少しており、3年生は読書量が増加している。読書量が伸び悩んでいる生徒への働き掛けが課題である。	今年度、公共図書館からの団体貸し出しを各学年で1回、教科で1回行い、行事の事前学習や教科での調べ学習に役立てている。また図書室だよりで本の紹介をしたり、図書委員会や学校司書による学校図書館に生徒を呼ぶためのイベントを実施したりしており、さらに学級文庫やミニライブラリーでの本の貸し出しも呼びかけている。このような活動を継続すると共に、先生方に調べ学習の際の図書室の利用を呼びかけ、学習・情報センターとして本に触れる機会を多くする。	学校や地域の図書館で本を読んだり知りたいことを調べたりすることがある。	
			自校	
			28.0%	
道徳教育の充実	人に対する心ない言動や汚い言葉を発する生徒がやや見られる。わざとそのような言葉を言うというわけではなく、何気ない日常会話として、そのような言葉を使ってしまっている様子である。このような言動がいじめなどの重大な事案につながらないようにすることが課題であると考えられる。 また、道徳の時間だけでなく、生徒の実態に応じた道徳教育を、特別活動や各教科学習を通して推進する必要がある。	本校の研究テーマである主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を、道徳授業でも展開し、深く考え、議論する道徳の授業を実践していく。このような授業を実践していくことで、教員が生徒に教え込むのではなく、生徒自身が道徳的価値観に気づき、そして行動できる道徳的実践力を高めていく。 また、年間指導計画に基づいて別業を作成し、全教育活動を通して充実した道徳教育を推進する。	人の役に立つことを、自分から進んですることがある	
			自校	
			76.8%	
体力向上	年々基礎体力が身につけていない生徒が増えてきている。また運動部に入っていない生徒も目立っている。体力テストでは女子は持久力、男子は柔軟性に欠け、投げる力が男女とも劣っている。	普段の授業の中で、5分間のからだづくり運動を取り入れ、基礎体力を図る。また地域活動に関わらせたり、昼休みボールを解放して運動させている。球技の単元では、ボールを扱う運動だけでなく、持久力を身につけるための5分走を授業の終わりに取り入れる。	運動することが好きである。	
			自校	
			80.4%	
教員の授業力向上	主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進を目指し、本校独自の学習スタンダードを作成し、共通実践を図った。しかし、深い学びに繋げるための効果的な「振り返り」の提示、学習意欲を高めるための意図的な「言葉かけ」が全教員で実践できていないことがわかった。	全教員が「千川中学学習スタンダード」を継続して実践し、1単位時間の学習の流れ(課題提示→自力解決→集団解決→振り返り)を明確にする。生徒と教員の授業アンケートを複数回行い、成果と課題を見とる。授業公開週間を設定し、教員同士が授業を見合い、研究分科会(3グループ)で学び合う。	学校の授業はよく分かる。	
			自校	
			85.4%	

自由記述 (幼小中一貫教育連携プログラム、学力調査とハイパーQUの活用など)

・「義務教育9年間を見通して、基礎学力の定着を図る～学習習慣の確立を目指した指導の工夫～」を研究主題として、小中一貫教育連携プログラムの協議を継続する。昨年度までの研究において、学習面では「宿題や提出物」を、生活面では「授業時のあいさつ」や「学習の姿勢」について、小中で共通して取り組んだ成果が見られた。今年度は本校の研究課題である「自分の考えや意見を伝えることができる力」の育成について、「正しい伝え方」を3校共通実践の取組課題とする。小学校の教員が中学校で授業を行うなど異校種間での教員の交換や視点を明確にした授業観察を通して、小学校との学びのつながりを確認し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・1年生では、学習面の1次支援レベルが全国平均より低く、2次・3次支援レベルが高くなっている。生活面は、1次支援レベルが高く、2次・3次支援レベルが低い結果となっている。2年生も学習面、生活面共に、1年生同様の結果となっている。3年生では、学習面での1次・3次支援レベルが低く、2次支援レベルが高くなっている。生活面では、1次支援レベルが8割近い数値となっており、2次・3次支援レベルは低くなっている。生活面、学習面共に、3次支援レベルの生徒については、実態を把握し、きめ細かな支援をしていく必要がある。1次支援レベル、2次支援レベルの生徒についても、配慮と情報交換を行うことで、より支援が行き渡るようにする必要がある。2回目のQ-U調査で成果が出るように繋げていく。 ・防災ジュニアスタッフをリーダーとして、D級ポンプ操作訓練やAED操作訓練を計画的に行い、防災意識の向上を目指すことに加え、災害時に地域安全の担い手としての自覚とスキルを身に付けさせる。	
---	--

教 科	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策
音 楽	・1年生は、意欲的にグループ練習や全体合唱に取り組もうとする生徒が多いが、自分の意見を書いたり、言語化したりすることが苦手である。また、学習内容を振り返り、定着させることが必要であった。 ・2年生は、合唱などの実技には意欲的だが、一部の生徒は、基礎的な知識が定着していない。授業の学習内容を定着させ、活用できるようにすることが課題である。 ・3年生は、課題を明確にして、自力解決の時間を充実させる必要があった。一人一人に、意見や考えを言語化させて、伝える力を身につけることが課題である。	・1年生は、課題に対して自分の考えをもつことができるように授業を行う。生徒の関心が高まるように、発問を工夫したり、自分自身の問題として捉えたりできるように課題設定をする。また、友達の意見を真剣な態度で聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができるように、授業規律を徹底する。 ・1、2年生は、毎時の授業の課題を明確に提示して、振り返りを丁寧に行うように努める。基礎的な音楽記号や用語などを定着させるために、授業の学習内容は、繰り返し確認するようにしたい。また、生徒の定着度を把握するために、適宜ワークシートなどを活用する。 ・3年生は、自力解決、集団解決の時間を明確に提示して、授業を進行するように努める。集団解決では、生徒が多様な価値観に触れることで、学習内容をより理解できるようにする。
美 術	・1年生は、私語を慎み、自席で作業するという姿勢が身についていないので、全体的に集中力に欠ける。そのため、課題の進みが極端に遅い生徒が出てしまい、それを見て周りの生徒も安心してしまう傾向にあり、全体的に作業がスローペースになりがちである。 ・2年生は、授業を受ける姿勢が身につく、全体的に集中力もついてきた。意見を求める機会に於いては、活発に挙手する生徒も多く意欲的ではあるが、技術的にうまくいかなくなると、やる気を失いがちである。 ・3年生は、真面目に取り組む生徒が多いが、作品をより良くするための創意工夫に乏しい生徒が見受けられる。平均的で良しとせず、オリジナルの構想を練る力、それを表現するための技術力を伸ばしたい。	・1年生には、導入に少し多めに時間を費やしても、「今すべきこと」「注意すべきこと」「やり方のコツ」をしっかりと伝え、授業に臨む際の基本的な姿勢を身につけさせる。それでも出遅れがちな生徒には、早めのフォローに努め、明確な指示出しと、それが達成できたかの確認をすることで全体の進捗度がある程度揃うようにする、作業が早いことを目指すのではなく、丁寧かつ真剣に取り組むことを目標に指導する。 ・2年生には、課題毎の構想を、言葉とイメージ画で表現する習慣をつけさせる。その構想には、その表現方法が適しているか、どのような手順が相応しいかを自分で考え、工夫していく力を伸ばすため、生徒一人一人の表現したいことを把握し、適切な助言ができるようにする。ただし、助言通りに作業させるのではなく、助言を受けた上で、生徒がどう表現したいかを改めて考えるような指導をする。 ・3年生には、作品の構想をしっかりと練らせ、表現の工夫を促す助言をする。大まかなイメージだけで作業に入るのではなく、ワークシートを用意するなどして、明確なイメージを描けるようになってから、作業スタートできるように指導する。特に技術力が必要な課題では、デモンストレーションを行い、表現の幅が広がるようにし、以前よりも技術力・表現力が向上したことを生徒自身に実感させる。
保健体育	・1年生は運動好きであるが、体力的にすぐれた生徒が少ない。 ・2年生は活気があり、何事にも意欲的で行動力のある生徒は多いが、脱線する傾向が時々見られる。 ・3年生は運動能力の高い生徒は多い。ただリーダーとして全体をまとめる力のある生徒が少ない。	授業の中で、ゲーム中心にグループの話し合いや思いやりを育てる協働活動を多くし、それによって達成感を共有できるようにする。また集団行動の規律を運動会等で徹底し、お互い認め合い助け合うようにする。教師として多くの生徒に継続的に声かけをする。
技術・家庭	・1年生は活発に作業に取り組む生徒が多い。しかし、個別で配慮が必要な生徒も多く、授業の進め方に工夫が必要である。 ・2年生は関心が高い生徒が多いが、集中力が低く話を聞けていない生徒も多い。話も聞けておらず、工具の使用方法など知識の定着に課題がある。 ・3年生は真面目な生徒が多いが、意見を発表したり、課題を解決するための取り組みに課題がある。	・一斉授業だけでなく、グループで作業する機会を増やし、集団で問題解決する機会を増やす。 ・説明は完結的にすることを心掛ける。一斉の説明だけでなく、グループごとにきめ細かく指導をする。それにより、生徒間で教え合うなど、学んだことを説明することで更なる知識の定着に繋がると考える。 ・構想段階で、自分の考えを言葉でまとめ、説明する機会を増やす。ものづくりの基本は、計画・立案だと考える。